

# 令和5年度 学力向上プラン

学校名 中央区立宇佐美学園

## 学校の教育目標

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| ○じょうぶになろうと努力する子（健康） | ○自ら考え進んで努力する子（自主性） |
| ○人を愛し自然を愛する子（生命尊重）  | ○学び合い高め合う子（社会性）    |

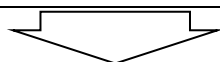
教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- |           |          |               |          |
|-----------|----------|---------------|----------|
| ○分かる授業の実践 | ○基礎基本の定着 | ○体験活動を取り入れた授業 | ○教員の資質向上 |
|-----------|----------|---------------|----------|

令和4年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>「令和4年度学習力サポートテスト」において、どの学年も「書くこと」が、目標値より10ポイント以上下回っている。</li> <li>「思考・判断・表現」の観点について、どの学年も、目標値を3～10ポイント程度下回っている。</li> <li>個人差が大きく、二極化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書く問題に対して無解答児童の割合が高い。</li> <li>主体的に取り組む態度が目標値よりも低い児童が多く、苦手意識をもつ児童が多い。</li> </ul>
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>「令和4年度学習力サポートテスト」において、どの学年も活用について目標値を下回っている。</li> <li>「数と計算」の領域について、どの学年も目標値を下回っている。</li> <li>個人差が大きく、二極化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの問題に対しても、苦手意識をもつ児童は無解答が多い。</li> <li>基礎基本の定着のために個別な支援が多く必要である。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「令和4年度学習力サポートテスト」において、どの学年も目標値を下回っている。</li> <li>「知識・技能」の観点がどの学年も目標値を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本が身につけていない児童が多い。</li> <li>児童が興味をもてるような資料提示などの授業改善が必要である。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>「令和4年度学習力サポートテスト」において、どの学年も「主体的に学習に取り組む態度」の観点は目標値を下回っている。</li> <li>植物の育ち方や生き物の成長などに関する内容について、目標値を10ポイント以上下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味、関心に個人差が大きく、興味をもてるような支援を継続する必要がある。</li> <li>周辺の環境を活用した授業を実践する。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>「令和4年度学習力サポートテスト」において、目標値を10ポイント程度下回っている。</li> <li>「書くこと」について目標値を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルファベットや英作文を書く時間を十分確保する。</li> <li>A L Tとの対話量を増やす。</li> </ul>
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>立ち幅跳び、50m走、ソフトボール投げの結果が全国平均を下回っている。</li> <li>50m走の結果は個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校庭が使用できなかった期間が続いたことから、校庭で全力疾走できる時間を確保する。</li> <li>ボールを投げる運動を多く設定する。</li> </ul>

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和5年度学習力サポートテスト」において、無解答の児童の割合を減らす。</li> <li>・漢字の確実な定着を行う。</li> </ul>
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和5年度学習力サポートテスト」において、無解答の児童の割合を減らし、目標値まで上げる。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和5年度学習力サポートテスト」において、基礎基本の問題に対する無解答の児童の割合を減らし、目標値まで上げる。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和5年度学習力サポートテスト」において、主体的に取り組む態度の平均正答率を目標値まで上げる。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に応じた書く力を身につけるために、書く時間を確保する。</li> </ul>
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特性に応じた運動の仕方、健康、安全について理解して基本的な技能を身につけ、個人差を小さくする。</li> </ul>
②授業改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人の課題を把握し、個に応じた補充問題を準備し、個別の支援を進め、各単元のワークテストなどを活用し、児童一人一人の定着を確認する。</li> </ul>
③家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題の提出率を100%にする。</li> <li>・家庭学習の時間を1時間以上設定し、寮と連携して児童一人一人の課題に対して支援する。</li> </ul>
④体力向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康活動を中心とした基礎的な体の使い方を身につける。</li> <li>・50m走の記録を全国平均まで上げる。</li> </ul>



### 【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く内容を明確に示し、児童が理解した上で書く時間を十分に確保する。</li> <li>・発達段階に応じて書いた内容について個別指導を行う。</li> </ul>
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の内容理解を行い、問題に取り組むための個別の支援を行う。</li> <li>・個に応じた補充プリントを活用した放課後学習を毎週1回以上実施する。寮の自習時間も活用し、学校と寮が連携した取組を行う。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味をもつことができるよう、提示する資料を選んだり、導入の仕方を工夫したりする。</li> <li>・地域の環境や人材を活用し、課題解決するような学習を多く取り入れる。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境を生かし、学園周辺での植物や生き物の観察を充実させ、自然に対する興味が高まるようにする。</li> <li>・個別の課題を把握し、個に応じた声かけなどの支援を進める。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTや担任との対話を多く設定し、自ら表現する活動及び時間を確保する。</li> <li>・毎時間、発達段階に応じてアルファベットや英作文を書く時間を十分確保する。</li> </ul>
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間にボールを準備し、ボールを投げる機会を作り出す。</li> <li>・学習カードを活用し、自分の学習の成果や課題に気付くことができるよう工夫する。</li> </ul>

## ②授業改善

取組Ⅰ	授業中の発言やノートなどを活用し、児童一人一人の個別の課題を把握し、課題に応じた助言や補充プリントを作成して定着度を確認する。
取組Ⅱ	I C T機器を活用し、児童が興味関心をもてるような資料を提示したり、自分の考えを発表したりする時間を設定する。

## ③家庭との連携

取組Ⅰ	担任と寮職員が、個別の課題に対して綿密に打ち合わせを行い、学校と寮で共通した支援・指導を行う。宿題の提出については、継続して指導を進める。
取組Ⅱ	個別に補充プリントなどを担任が作成し、学校でも寮でも励ましの声をかけたりやコメントを書いたりし、児童の意欲が継続できるようにする。

## ④体力向上

取組Ⅰ	ペースランニング、体幹運動、縄跳びなど、年間を通して計画的に運動に取組み、日常的に運動に親しむ環境をつくる。
取組Ⅱ	運動するための教材教具を工夫し、施設を効果的に活用した体育の授業を実践する。